

ハンドブック  
ワンポイント  
レッスン

# 知っておきたい規則とルール

## Question

昨年12月に開催された日本リーグを観戦致しました。

その際、女子の対戦中に隣のコートの選手(男子)が、返球の情性でラリー中のコートへ入ってきました。その直後コートに入られた側の選手の打球がアウトし、そのポイントは決着したようでしたが、その後、失ポイントした側の選手が正審に何やら話をしてしばらく中断していたようでした。中断していた間、他のコートの試合を見ていたので詳しいやり取りは分かりませんでした。最後には正審がどちらかの監督にイエローカードを提示している様子が見られました。この時の状況をもしご存じであれば、審判がどのような対応をされたのか教えて頂けないでしょうか？

## Answer

そのマッチに直接関係のない者の行為によってプレーが妨害されたと正審が認めた場合にはそのポイントはノーカウントとなる。

正審が再判定の通告を行った以後、当該通告に対するプレーヤー(団体戦の場合は、部長・監督又はコーチを含む)からの問い合わせは異議とみなし警告(イエローカード)を与える。

日本リーグは実業団トップレベルのプレーヤーによって争われる大会ですので、地域レベルの大会ではあまり見られないようなことときには起こるものです。今回ご質問頂いた事例でも、施設の都合上コートとコートの間が少し狭いとはいえ、隣のコートでプレーしているプレーヤーが、返球の情性で隣のコートへ大きく侵入してしまうような場面に出くわすようなことはあまりないと思われまので、プレーヤーの躍動感とスピードをあらためて感じさせられます。

お尋ね頂いた状況ですが、大筋は質問者の方が書かれている内容の通りです。マッチが中断した女子の対戦は、長いラリーが続いている状況で、ベースライン付近からコート内へ少し入り込んだところで、今まさに打球しようとしているプレーヤーの前方(サービスサイドライン辺り)へ、隣のコートのプレーヤー(男子)が侵入し、その直後の打球を侵入してきた側の反対のサイドライン側へアウトしたものでした。正審はその打球の落下点が自己の判定区分であったので「アウト」とコールしまし

たが、打球したプレーヤーから「隣のコートのプレーヤーが視界に入ってプレーが妨害されたのでノーカウントではないか」と質問がなされたようです。正審はラリー中の打球に注視していたため、隣のコートのプレーヤーの侵入に気が付いていませんでしたので、副審へ状況の確認を行うとともに協議をした結果、隣のコートから侵入してきたプレーヤーによって、打球をしたプレーヤーのプレーが妨害をされたことを認め、ノーカウントとしてそのポイントのやり直しを双方のプレーヤーに通告しました。

この通告に対して相手方チームの監督が「打球がアウトしたプレーヤーは明らかに打球した方向へ構えており、隣のコートのプレーヤーの侵入はプレーに影響を及ぼしていないのでノーカウントとなるのはおかしいのではないかと正審へ再度質問してきました。これに対して正審は再判定の通告後なので異議と見なし、監督に対して警告(イエローカード)を与えた、というのが詳しい状況のようです。

今回の事例に限らず、プレーヤーの質問等によって再判定の通告を行う際には、正審は双方のプレーヤーに再判定の内容をきちんと説明するよう心掛けましょう。再判定時の説明が不十分な場合、通告後にプレーヤーなどから再度質問が行われ、長時間マッチが中断され円滑に進行しない状況が生じてしまう場合もあります。それと共に、十分な説明を行ったにも拘らず、再判定の通告に納得をせずプレーの再開をしない場合には、それを放置しないで警告（イエローカード）を与えるなど毅然とした対応を取ることも、アンパイヤーを務める上では重要なことです。

ご質問頂いた状況での当該マッチのアンパイヤーは、正審・副審で連携し質問の内容について協議した上で再判定を行い、また、その再判定後の再質問に対しても、毅然とした適切な対応だったといえるでしょう。

マッチ中は時として予想もしないような事象が起こることがあります。その際に適切な対応が出来るよう、日頃からソフトテニスハンドブックやジュニア審判マニュアルをよく読んで理解しておくよう心掛けましょう。

## 【関連規則】

### 競技規則

第36条 ノーカウント

第40条 異議の申立て等の禁止

第41条 警告

### 審判規則

第14条 再判定

### ジュニア審判マニュアル

審判規則について 12. ノーカウントになるのはどんなときか？

17. 警告

審判規則について 5. プレーヤーから質問があったときは？

(再判定)

